

# まちの話題

# 栄光輝く

長年の功績や日々の努力を褒め、  
栄光に輝いた皆さんをご紹介します

## 【銅版画家】HOO工房 かとうまさお 加藤昌男さん(前沢田)

地域社会にあって、長年、地域文化の向上に貢献して、その活動と功績が著しい個人または団体に贈る賞



学生時代から銅版画を始め、退職を機に丹波篠山市に移住された加藤さん。1988年には自宅にアトリエ「HOO工房」を開設し、本格的な活動を開始されました。丹波地域での音楽祭「シューベルティアードたんば」のポスターやパンフレットの原画制作をはじめ、宮沢賢治の思想に共鳴し、賢治の童話を描いた銅版画の制作や語る会を開催。また、霊長類学者・河合雅雄さんの著書「宮沢賢治の心を読む」の表紙や挿絵も担当するとともに、2015年には宮沢賢治イーハトーブ館(岩手県花巻市)で展示会も行われ、2016年に花巻市から宮沢賢治奨励賞を受賞されています。加藤さんは、「今後も、宮沢賢治の世界を版画で表現するとともに、河合先生を顕彰する活動も続けていきたい」と話されました。

ともしびの賞

## 【陶磁器製造工】炎丹久窯 しみずとよかず 清水豊和さん(今田町上立杭)

陶芸の仕事に携わり32年目となる清水さん。もともと臨床検査技師として働かれていましたが、息子の辰弥さんが窯元を承継できるようにと、家業を継ぐことを決意されました。最近では異なる色の粘土を組み合わせる伝統技法「練り上げ」作品も制作されています。32年間生活に密着した器作りを続けられるとともに、高齢者大学「兵庫県いなみ野学園」では9年間講師を務められ、作る喜びや楽しさを教えられています。受賞には「陶芸は大変奥深く、学ぶことがたくさんあります。それを一つ一つ解決してきたことが評価されたと思います」とにっこり。「今後も、古来の焼成で使われていた穴窯に継続して取り組みたい」と、力強く話されました。



兵庫県技能顕功賞

## 和田興産株式会社



丹波篠山市への多額の寄付に対して、和田興産株式会社(和田剛直会長)に紺綬褒章が授与されました。紺綬褒章は国や地方公共団体などに、公益のために私財を寄付した個人や団体に贈られる褒章です。市が進める丹波篠山国際博事業の成功に向け、インバウンド誘客につながり、地方創生成功のモデルにもなるとの思いから、今回の寄付に至りました。和田会長は「多くの人に四季を通してまちのよさを体験してもらいたい」と話されました。

紺綬褒章



## 自分のキャリアや進路を考える「夢プラン」(12月17日)

「夢プラン」において、市内5校の中学生とその保護者に向けて、市内3高校の代表生徒が自分たちの高校を紹介しました。高校生たちは、学校の特色や実際に通っているからこそ感じる魅力を、パワーポイントや動画、クイズなどをもとに工夫を凝らして紹介。参加した中学生からは「高校って楽しそうなところだと思えた」「市内の高校も選択肢の一つに加えてほしい」という声が聞かれました。



## 丹波篠山で自然を学ぶ(12月14日・15日)



市の自然環境や保全活動への理解を深める「美しい農村を未来へつなぐツアー」が開催され、武庫川女子大学の学生10人が参加しました。今回は国蝶オオムラサキの調査を実施。参加者全員が幼虫を発見し、豊かな自然を直接肌で感じる機会となりました。

## 黒大豆出荷作業がピーク(12月12日)

おせち料理に欠かせない丹波黒大豆の出荷準備が進む中、約80アールを栽培する赤井利也さん宅(口坂本)でも、出荷作業が行われています。乾燥させた枝を脱粒機にかけて、さやから取り出した豆を机に広げ、傷やひび割れがないかを調べ、丁寧に選別されています。



## 千葉ロッテマリーンズ・中森俊介投手成績報告会で交流深める



丹波篠山ふるさと大使を務めるプロ野球・千葉ロッテマリーンズの中森俊介投手の2025年シーズン成績報告会(市・中森俊介選手後援会主催)が、丹波篠山市民センターで行われました。報告会には、市内の少年野球チームの選手たち約80人が参加。中森選手の勇姿が映像で紹介され、成績の報告が行われた後、質問タイムや、サイン入りグッズなどの争奪ジャンケン大会、サイン会などが行われ、子どもたちと交流を深めました。今季は腰を痛め、後半戦は登板がないものの、25試合に登板し、中継ぎや守護神として2勝2敗、10ホールド、5セーブ、防御率1.23の成績を収めた中森選手。「来季はサブロー新監督のもと、けがなくシーズンを投げ抜き、リーグ優勝、日本一をめざしたい」と力強く話しました。



特集

タウントップビジネス

HOTスポット

市政リーダー

インフォメーション

おでかけ相談

はぐくみ

街かどリポート

栄光輝く

まちの話題



## 丹波篠山市出身の小田伊織選手(城西大)が箱根駅伝で好走(1月3日)



1月2日、3日に開催された東京箱根間往復大学駅伝競走。丹波篠山市出身で城西大学3年生の小田伊織選手が2度目の出場を果たしました。復路の8区(21.4km)に登場した小田選手は1時間5分26秒と、一昨年よりも約1分上回る記録で区間13位と好走。チームの総合7位入賞に貢献されました。

レースを終えて、小田選手は、「まずは応援ありがとうございました。一昨年とは状況が違い、緊張が勝って思うような結果ではありませんでしたが、それでも沿道からの声援に背中を押され、頑張ることができました」と話します。また、大会を振り返り、「チームのレベルも上がっているので、成長を感じられる順位だったと思います。今年は学生生活最後の年。ラストイヤーは悔いの残らないように頑張りたい。チームの主力となって貢献できる走りをします」と抱負を語りました。

## 快進撃が止まらない！ジュニアサッカークラブ「FCうりぼう」



全日本U-12サッカー選手権県大会



全国小学生選抜サッカー2026 IN HYOGO

丹波篠山市で活動しているジュニアサッカークラブ「FCうりぼう」。今年度は、6年生が全日本U-12サッカー選手権県大会で初のベスト8進出、5年生が全国小学生選抜サッカー2026 IN HYOGOにおいて県大会出場(2年連続4度目)、4年生が第3回DAICELCUP U-10県大会で初のベスト4に進出するなど、快進撃を続けられています。

チームでは、「積極的にボールを奪いに行く」「攻撃から守備への切り替えを意識する」ことを共通のテーマに、サッカーと向き合われています。「ここ数年、このテーマが全学年に浸透し、県の強豪チームとも接戦で戦えるようになってきました」と話される古江一樹5・6年担当コーチ。「今後は、チームを県大会の常連チームにしていきたいです。そして、丹波篠山からプロで活躍する選手をたくさん育てていきたいですね」と、熱い思いを話されました。

## 高橋加奈さんと吉田仁菜さんが近畿ミニバスケットボール交歓大会に出場



吉田仁菜さん(左)と高橋加奈さん

昨年の12月20日・21日の両日、兵庫県立総合体育館(西宮市)で開催された「第56回マクドナルド兵庫県ミニバスケットボール選手権大会」。味間小学校に在籍する高橋加奈さん(6年生)と吉田仁菜さん(4年生)が所属するミニバスケットボールチーム氷上籠球倶楽部(丹波市)が準優勝を果たし、「第50回近畿ミニバスケットボール交歓大会」への出場を決めました。高橋選手は攻守で頼りになるフォワード(F)で、コートの上でさまざまな局面で活躍する万能型プレイヤー。吉田選手はミスを恐れず勇敢にチャレンジできるプレーヤー。2人は「全国大会出場をめざしてきましたが、あと一歩届かず悔しい結果となりました。近畿大会では全勝を目標にチーム一丸となって、戦い抜きたいと思います。最後まであきらめず、全力でがんばります」と力強く話されました。

## 消防出初式(1月11日)



丹波篠山市消防団員と消防職員約800人が参加した消防出初式。篠山城跡三の丸広場では、市内21の分団による一斉放水が披露され、火災から市民を守る決意を新たにしました。今年も災害の少ない1年でありたいように。

## 今田元旦マラソン(1月1日)



元旦恒例のマラソン大会が今田町上立杭で行われました。大会には西脇工業高等学校陸上競技部の皆さん19人が招待選手として参加したほか、幼児から大人まで約140人が参加。新年最初のゴールに向かって、今田地区を駆け抜けました。



実行委員会【左上から】

- 辻奥壮太さん
- 九鬼祐輔さん
- 武元秀一さん
- 武部優さん
- 中野佑香さん



## はたちのつどい(1月11日)

田園交響ホールで開催されたはたちのつどい。今年は234人が参加しました。オープニングには篠山吹奏楽団が登場し、高校時代にはやった曲などを演奏。さらには丹波篠山市民ミュージカル劇団員もお祝いに駆け付けました。今年はお家族も会場内に入ることができ、思い出に残るはたちのつどいとなりました。